

イチゴのアザミウマ類とハダニ類多発期(2～6月) における天敵による害虫防除体系

イチゴのアザミウマ類とハダニ類は、スワルスキーカブリダニまたはアカメガシワクダアザミウマとミヤコカブリダニを体系放飼し、防虫ネットを設置することで、多発期(2～6月)でも密度を低く抑えることができる。

成果の内容

- 1 バンカーシート[®](図1)を用いて、2月下旬にミヤコカブリダニ 5,000 頭/10a を1回放飼することで、ハダニ類の発生を低く抑えることができる(図2)。
- 2 バンカーシート[®]を用いて、3月下旬にスワルスキーカブリダニ 50,000 頭/10a を1回放飼することで、5月下旬までアザミウマ類幼虫の密度を低く抑えることができる(図3)。
- 3 2月下旬にアカメガシワクダアザミウマ 15,000～20,000 頭/10a を1回放飼することで、5月中旬までアザミウマ類幼虫の密度を低く抑えることができる(図4)。
- 4 赤色防虫ネット(商品名:サンサンネット e-レッド)を設置することで、アザミウマ類の密度を4月初めまで無被覆の約4割に抑制できる(図5)。透明防虫ネット(商品名:サンサンネット ソフライト)でも効果は同等である(図6)。

成果の活用面・利用上の留意事項

- 1 天敵放飼の前に、必ずアザミウマ類やハダニ類の発生状況を確認し、発生が認められた場合は薬剤散布等によって密度を下げてから放飼する。
- 2 5月以降、アザミウマ類成虫の施設外からの侵入が増加するため、要防除水準(10～11 頭/100 花)以下に抑えられない場合は、薬剤防除等に切り替える。
- 3 10a 当たりの農薬・資材費は、アザミウマ類天敵1回(スワルスキーカブリダニ+バンカーシート[®]またはアカメガシワクダアザミウマ)+ハダニ類天敵1回(ミヤコカブリダニ+バンカーシート[®])の体系で約7.5～9.2万円、防虫ネットが約1.8万円である。

具体的なデータ



図1 バンカーシート[®]

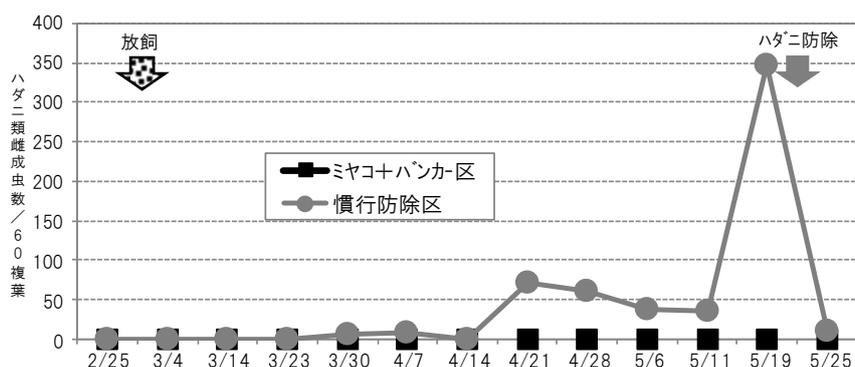


図2 ミヤコカブリダニによるハダニ類防除効果

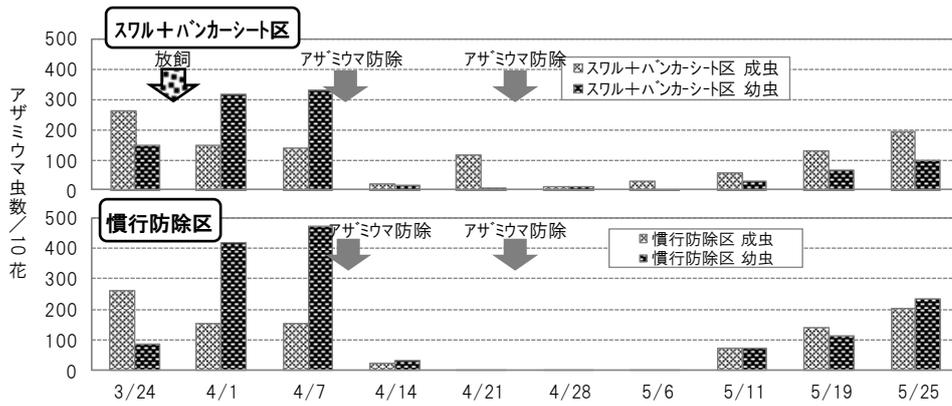


図3 スワルスキーカブリダニによるアザミウマ類防除効果

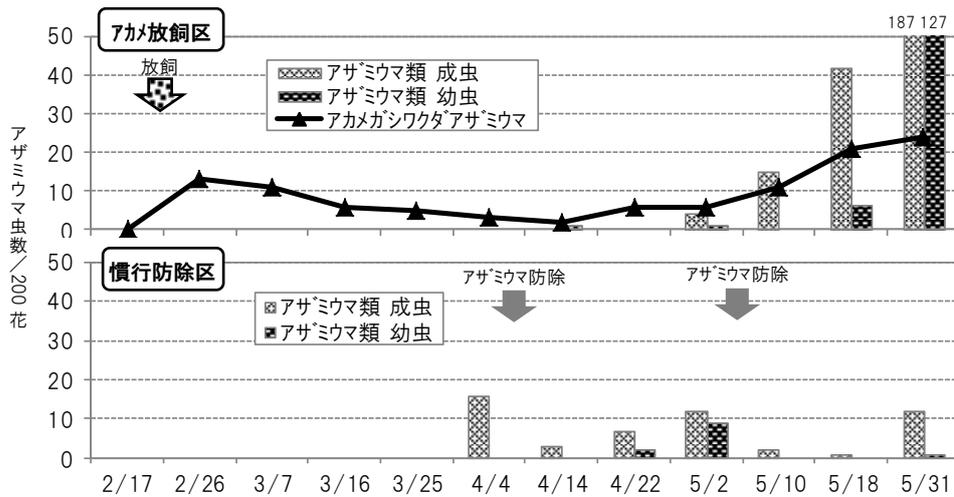


図4 アカメガシワクダアザミウマによるアザミウマ類防除効果

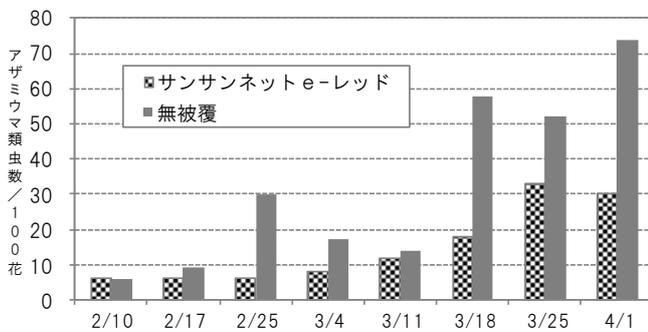


図5 赤色防虫ネットによるアザミウマ類侵入抑制効果



図6 防虫ネットの色によるアザミウマ類侵入抑制効果の違い

関連文献等

- 1 平成29年度農林総合技術センター試験研究成果発表会発表要旨「イチゴの長期どりに対応した春期（2～6月）の害虫防除体系」：27-28

研究年度	平成26年～28年
研究課題名	イチゴの長期どりに対応した春期（2～6月）の害虫防除技術体系の確立
担当	農業技術部資源循環研究室 岩本哲弥・河村俊和・本田善之